

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和5年11月7日(2023.11.7)

【公開番号】特開2022-87765(P2022-87765A)

【公開日】令和4年6月13日(2022.6.13)

【年通号数】公開公報(特許)2022-105

【出願番号】特願2020-199931(P2020-199931)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/028(2006.01)

10

【F I】

A 6 1 B 3/028

【手続補正書】

【提出日】令和5年10月27日(2023.10.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検眼に検査視標を呈示し、前記被検眼の光学特性を自覺的に測定するための検眼システムであって、

被検者の前記検査視標に対する反応時間に基づいた基準値を設定する設定手段と、前記被検者が前記検査視標を判読した回答を入力する応答入力手段と、前記応答入力手段からの入力信号に基づいて、検査を自動的に進行させる制御手段と、前記設定手段が設定した前記基準値に基づいて、前記被検者に前記回答の入力を誘導するための誘導情報を、前記被検眼の前記検査中に出力する誘導情報出力手段と、

を備えることを特徴とする検眼システム。

30

【請求項2】

請求項1の検眼システムにおいて、

前記誘導情報出力手段は、前記誘導情報を繰り返すために設定された所定の時間を経過しても、前記応答入力手段からの信号が得られない場合に、前記誘導情報を繰り返し出力することを特徴とする検眼システム。

【請求項3】

請求項2の検眼システムにおいて、

前記誘導情報出力手段は、前記誘導情報の出力回数に応じて、前記誘導情報を、第1誘導情報から、第1誘導情報とは少なくとも一部が異なる第2誘導情報へと、変更して出力することを特徴とする検眼システム。

40

【請求項4】

請求項1～3のいずれかの検眼システムにおいて、

前記検眼は、複数の検査項目を含み、

前記設定手段は、前記検査項目に応じた前記基準値を設定することを特徴とする検眼システム。

【請求項5】

請求項1～4のいずれかの検眼システムにおいて、

前記被検眼の測定が開始された開始タイミングと、前記被検者が前記検査視標に対して応答した応答タイミングと、に基づいて、前記反応時間を取得する反応時間取得手段を備え、

50

前記設定手段は、前記反応時間取得手段が取得した前記反応時間に基づいて、前記基準値を設定することを特徴とする検眼システム。

【請求項 6】

被検眼に検査視標を呈示し、前記被検眼の光学特性を自覚的に測定するための検眼システムにて用いる検眼プログラムであって、

前記検眼プログラムがプロセッサに実行されることで、

被検者の前記検査視標に対する反応時間に基づいた基準値を設定する設定ステップと、

前記被検者が前記検査視標を判読した回答を入力する応答入力ステップと、

前記応答入力ステップによる入力信号に基づいて、検査を自動的に進行させる制御ステップと、

前記設定ステップにて設定した前記基準値に基づいて、前記被検者に前記回答の入力を誘導するための誘導情報を、前記被検眼の前記検査中に出力する誘導情報出力ステップと、
10
を前記検眼システムに実行させることを特徴とする検眼プログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

(2) 本開示の第2態様に係る検眼プログラムは、被検眼に検査視標を呈示し、前記被検眼の光学特性を自覚的に測定するための検眼システムにて用いる検眼プログラムであって、前記検眼プログラムがプロセッサに実行されることで、被検者の前記検査視標に対する反応時間に基づいた基準値を設定する設定ステップと、前記被検者が前記検査視標を判読した回答を入力する応答入力ステップと、前記応答入力ステップによる入力信号に基づいて、検査を自動的に進行させる制御ステップと、前記設定ステップにて設定した前記基準値に基づいて、前記被検者に前記回答の入力を誘導するための誘導情報を、前記被検眼の前記検査中に出力する誘導情報出力ステップと、を前記検眼システムに実行させることを特徴とする。

20

30

40

50